



2022年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月9日

上場会社名 株式会社MTG 上場取引所 東
 コード番号 7806 URL <https://www.mtg.gr.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松下 剛
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 CFO (氏名) 吉高 信 TEL 052-307-7890
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第3四半期の連結業績（2021年10月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第3四半期	34,706	9.4	1,943	△47.1	2,390	△41.4	1,921	△48.8
2021年9月期第3四半期	31,734	27.5	3,675	—	4,079	—	3,754	—

(注) 包括利益 2022年9月期第3四半期 1,451百万円 (△62.1%) 2021年9月期第3四半期 3,827百万円 (972.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第3四半期	49.10	48.89
2021年9月期第3四半期	94.96	94.17

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年9月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第3四半期	49,024	40,416	81.7
2021年9月期	46,939	38,154	81.1

(参考) 自己資本 2022年9月期第3四半期 40,067百万円 2021年9月期 38,048百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年9月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2022年9月期	—	0.00	—		
2022年9月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年9月期の連結業績予想（2021年10月1日～2022年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,000	14.5	3,000	△22.9	3,400	△19.3	2,500	△55.3	63.87

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

新規 ー社 (社名) ー
除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年9月期3Q	40,077,128株	2021年9月期	39,744,728株
2022年9月期3Q	690,261株	2021年9月期	690,217株
2022年9月期3Q	39,141,677株	2021年9月期3Q	39,537,614株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間と収益の会計処理が一部異なりますが、この変更が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であるため、前年同四半期の数値を組替えずに比較・分析を行っております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染者数はワクチン接種の普及等により減少傾向にあるものの、地政学的にも不安定な状況が続き、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは、世界中の人々の人生をより美しく、より健康的に輝かせるためにHEALTH、BEAUTY、HYGIENE領域においてブランド及び商品の開発に取り組んでまいりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①ダイレクトマーケティング事業

主な事業内容は、当社及び国内他社ECサイト、新聞を通じた一般消費者への直接販売及びインターネット通信販売・カタログ販売並びにテレビ通信販売事業者への卸売販売となります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は15,708百万円(前年同期比12.1%増)、経常利益は3,983百万円(前年同期比15.7%減)となりました。

直接販売においては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策での行動制限が緩和の傾向にある中、外出需要が増加した影響によりWEB、新聞ともに売上は軟調となりました。ReFaブランドではReFa BEAUTECHシリーズのヘアケア機器や付随する消耗品の販売が好調に推移いたしました。新商品ReFa BEAUTECH EPIが楽天のデイリーランキングを獲得(家電カテゴリランキング1位)したほか、比較的好調なTV通販市場でReFa CARAT RAYの単日販売において大きな実績を上げることができました。

また、SIXPADブランドにおいても新商品のSIXPAD Powersuit CoreBeltが好調に推移しており、あわせてMTG LIFEPLAN(月々定額・下取りサービス・きちんと保証)の会員数が増加する結果となりました。

②プロフェッショナル事業

主な事業内容は、B happy サロン専用ECプラットフォームでの販売、美容室運営事業者、エステティックサロン運営事業者への卸売販売、ショッピングセンター等での一般消費者への直接販売となります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は8,014百万円(前年同期比17.9%増)、経常利益は1,354百万円(前年同期比12.3%減)となりました。

020サロンプラットフォームサービスB happy(プラットフォーム上に設けた自店舗専用のオンラインショップより、店舗顧客に当社商品をいつでもお買い求め頂けるサービス)が好評で、2022年9月末の加盟店舗目標5,000店舗を、美容室、エステティックサロンを中心に、当初想定より4ヶ月前倒しの2022年5月上旬に達成いたしました。設備投資や在庫リスクを負わずに自店舗のオンラインショップを持つことができるだけでなく、サロンに向けた販促支援のオンラインセミナーを数多く開催し、サポート体制も充実することで好評を得ております。

さらに2022年4月、オンライン専売商品のウルトラ炭酸ミストのセルフケアデバイスMEGLYがリリースとなり、消耗品の炭酸ガスカートリッジ、化粧水のリピート事業がスタートいたしました。

また、同じく2022年4月に発売した新商品ReFa BEAUTECH EPIについては、簡単操作で本格的なムダ毛ケアを叶えるIPL光美容器として数多くの受注を頂くとともに、新規取引希望のサロン様から多数の問い合わせを頂きました。

宿泊施設においてはReFa FINE BUBBLE S、ReFa BEAUTECH DRYER PRO、ReFa BEAUTECH IRONの設備導入希望が数多く寄せられ、ReFaルームという新たなトレンドが生まれました。

③リテールストア事業

主な事業内容は、量販店・専門店・百貨店・免税店・ショッピングセンターを中心とした運営事業者への卸売販売及び当社運営の小売店舗での対面販売を通じた一般消費者への直接販売となります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は7,658百万円(前年同期比15.6%増)、経常利益は331百万円(前年同期比65.8%減)となりました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の長期化により、引き続きインバウンド需要の低迷が続きました。まん延防止等重点措置が緩和され、店舗集客は戻っているものの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策での行動制限が緩和の傾向にある中、レジャー用品等に需要が移り、美容機器、健康機器の販売においては厳しい状況である中、SIXPADブランドの新商品SIXPAD Powersuit CoreBeltがCM効果もあり好調に推移したほか、SIXPAD

FootFitシリーズが「父の日」等のイベント需要で好調に推移いたしました。

ReFa BEAUTECHシリーズのヘアケア機器や付随する消耗品、ReFa FINE BUBBLE S等を主軸に売上が堅調に推移いたしました。また、2022年3月に店頭導入されたReFa HEART BRUSHはヒット商品となりました。ReFa FINE BUBBLE Sは大手家電量販店の郊外店舗への展開を大きく増やし、販売台数は堅調に推移しております。

また、小売店舗のオンライン販売も対面販売と同様に堅調に推移いたしました。

④グローバル事業

主な事業内容は、海外グループ会社ECサイト及び海外のインターネット通信販売事業者の運営するECサイトを通じた一般消費者への直接販売、並びに海外のインターネット通信販売事業者、海外の販売代理事業者、海外の美容専門店及び海外の百貨店運営事業者への卸売販売となります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は1,480百万円（前年同期比41.1%減）、経常損失は378百万円（前年同期は578百万円の経常損失）となりました。

中国においては、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策として上海市で2ヶ月以上のロックダウンが行われたことにより、販売活動に大きな影響が及びました。HYGIENEブランド商品e-3Xについては、2022年6月より、中国市場において現地パートナーと販売を開始いたしました。また、中国に展開しておりましたReFa FINE BUBBLE Sについて、2022年5月より米国及びシンガポールにて販売を開始いたしました。

⑤スマートリング事業

主な事業内容は、ショッピングや飲食時の決済を可能とする、非接触式のスマートリング（近距離無線通信を搭載した指輪）の製造販売を行うIoT事業となります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は147百万円（前年同期比745.8%増）、経常損失は922百万円（前年同期は399百万円の経常損失）となりました。

2022年5月、当社グループ以外の者に対する第三者割当増資により、今後の事業拡大の為に資金調達を実施いたしました。当社グループ以外の者との提携等の関係強化、財務基盤の安定化を図るものであり、金融、住宅・建設、情報通信、小売流通、健康と多岐にわたる各分野において、今後事業パートナーとの協業を進めてまいります。

⑥スポーツジム事業

主な事業内容は、EMSフルボディースーツを着用し、EMSと動作を融合させたトレーニングプログラムを行うSIXPAD STATION事業及び、EMSトレーニングスーツを着用し、専用アプリによって自宅でトレーニングするSIXPAD HOME GYM事業となります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は948百万円（前年同期比61.4%増）、経常利益は9百万円（前年同期は657百万円の経常損失）となりました。

スポーツジム事業においては、WEBサイト、家電量販店、専門店、百貨店のほかショッピングモールやスポーツジムでのイベント販売等、それぞれのチャンネルで引き続き販売強化に注力いたしました。店舗への集客が増加傾向にあり、対面販売が堅調に推移したほか、新たにSIXPADブランドとパートナーシップを締結したミュージシャン長瀬剛氏の全国ツアーに特別協賛し、全国21会場で商品の体験や購入ができるブースを出展し、CM効果もあわせSIXPAD HOME GYMの認知拡大を図ることができました。

SIXPAD STATION八王子では、SIXPAD HOME GYMを用いたグループレッスンのサービス展開を行い、引き続き会員数は堅調に増加いたしました。

⑦その他事業

主な事業内容は、EV車両を中心とした自動車販売となります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は748百万円（前年同期比36.6%減）、経常利益は102百万円（前年同期比54.3%減）となりました。

これらのセグメントで取り扱っている主なブランド及び商品は、次のとおりであります。

<HEALTH>

(SIXPADブランド)

「誰かのため、愛する人のために鍛える」という思いに共鳴し、SIXPADブランドはミュージシャン長瀬剛氏とパートナーシップを締結しました。2022年4月、家庭用初の腹筋と脇腹、背筋を同時に鍛えられるSIXPAD Powersuit CoreBeltを発売し、発売日より長瀬氏を起用したTVCMやWEBプロモーションを全国で実施いたしました。また、長瀬氏の全国ツアーに特別協賛し、全国21会場で商品の体験や購入ができるブースを出展し、新商品及びSIXPAD

HOME GYMの認知拡大を図りました。

SIXPAD Foot Fit Liteにおいては、2022年4月、これまでのブラックのみの色展開であったものに加え、女性やインテリアとの相性を意識した新色ライトグレーを発売いたしました。「母の日」「父の日」に向けたプロモーションではTVCMとWEB広告を展開し、発売から好調に推移いたしました。

発売以来大好評のSIXPAD Power Gunは、好調に販売台数を伸ばし、雑誌やWEB、SNSを中心に多数掲載頂きました。美容のプロフェッショナルからも高く評価頂き、美容誌MAQUIA (マキア) のベストコスメ2022上半期「ビューティギア部門」1位を受賞いたしました。SIXPADブランド商品のMAQUIA 上半期「ビューティギア部門」1位受賞は、2021年上半期のSIXPAD Foot Fit Liteに続き2年連続の受賞となります。

(Styleブランド)

2022年5月、新シリーズとなる「Style健康Chair」を発売いたしました。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大をきっかけに在宅勤務を導入する企業が増える中、家庭のチェアを見直す等チェアへの注目が高まる中、「S字姿勢」を保ち腰の負担の軽減へ導く機能とともに、着座時の筋活動量の軽減に影響を与えるエビデンスを有する商品として、チェア市場において差別化が可能な商品として大きな期待が寄せられております。

(NEWPEACEブランド)

通信販売においてNEWPEACE Lightが堅調に推移いたしました。今後もNEWPEACEブランド商品の特徴であるスリープテックによるテクノロジーと睡眠の本質である気持ち良く眠ることへの認知拡大を継続的に行ってまいります。

<BEAUTY>

(ReFaブランド)

2022年4月より、2種のLEDで肌悩みにアプローチするフォト美顔器ReFa BEAUTECH SPOTの量販店での先行発売を皮切りに、オンラインショップや美容室サロン等の各市場での販売を開始いたしました。美容誌・女性誌各誌の2022年上半期ベストコスメ企画で、多数ランクインをする等早くから注目を集めています。同じく2022年4月には、ムダ毛ケア初心者でも安心して自宅で使用できる、シンプル設計のIPL光美容器ReFa BEAUTECH EPIをオンラインショップやB happy (サロン顧客向けECサイト) で先行発売の後、サロンや量販店等各市場へ順次販売拡大を進めました。発売に合わせて「FIRST AND BEST (最初で最良のムダ毛ケア) をコンセプトにしたプロモーションを展開し、関東・関西・東海エリアではTVCMも放映する等販売強化を進め、新商品でありながらも女性誌「MOREベストコスメ2022上半期」にて第3位にランクインする等注目を頂いております。また毛穴よりも小さな泡「ファインバブル」を発生するビューティーシャワーにおいては、2022年4月にシリーズ累計出荷数100万本を突破いたしました。シリーズの中心となるReFa FINE BUBBLE Sでは、各市場における認知拡大と販売促進を目的としたTVCM放映を東京・大阪・名古屋を中心に引き続き集中展開し、新聞における積極的な広告出稿、YouTube、SNS媒体でも発信を強化する等、様々なターゲットに効果的なリーチを図りつつ、ブランド全体の価値向上にも繋がるプロモーション強化を取り組みました。今後もビューティーシャワー市場のリーダーとしてさらなる可能性を追求するとともに、バスタイムを美しさを磨く時間へと変えるブランド開発を目指します。2022年5月には濃密炭酸ケアでトラブルを抱えた頭皮や髪にアプローチする「ReFa SPA FOAM SHAMPOO」、「ReFa RICH TREATMENT」、「ReFa CRACKING HEAD SERUM」の3商品をサロン向け商品として発売いたしました。

(ON&DOブランド)

2022年5月、JR名古屋高島屋におけるライフスタイル展示会をはじめ、東京・名古屋・大阪にて各種イベントに積極的な出展を行いました。2022年6月、東京にて行われたサスティナブル・ビューティーフェスでは、多くの来場者に向けたブランド認知の拡大とオンラインショップへの誘導を積極的にプロモーションいたしました。同じく2022年6月、数量限定のミスト化粧水「REFRESHING MIST」を発売いたしました。また、YouTuberを起用した初めてのプロモーションにも挑戦し、椿の農園や工場での製造風景をコンテンツ化して発信する等、新たなアプローチによるさらなる認知拡大施策を展開いたしました。

(五島の椿ブランド)

ブランド認知拡大を図り、DtoC販売を主要な販売チャネルに成長させるため、お客様と直接交流を図り情報を得る貴重な機会として、オーガニック系コスメ販売イベントや展示会に出展いたしました。また、TVホームショッピングでご購入されたお客様からのリピート注文等により、顧客数が堅調に推移いたしました。

<HYGIENE>

（@LIFEブランド）

国内においては、除菌・消臭ニーズにおける親和性の高いペットサロンへの導入、及び除菌・消臭だけではなく、湿気によるカビ対策とし防カビ訴求を含めたTVショッピングでの販売が堅調に推移いたしました。また大手TV通販会社より、過去2年において急成長をし、販売に貢献したブランドとして「ライジング・スター・アワード」を受賞いたしました。

海外販売においては、中国上海市ロックダウンの影響により出荷が停滞しておりましたが、2022年6月の出荷再開とともに、中国における販売活動を開始いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は34,706百万円（前年同期比9.4%増）となりました。また、営業利益は1,943百万円（前年同期比47.1%減）、経常利益は2,390百万円（前年同期比41.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,921百万円（前年同期比48.8%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては49,024百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,085百万円増加しました。これは主に現金及び預金の減少1,073百万円、受取手形及び売掛金の増加497百万円、商品及び製品の増加1,552百万円並びに投資有価証券の増加484百万円によるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては8,608百万円となり、前連結会計年度末に比べ175百万円減少しました。これは主に支払手形及び買掛金の増加620百万円、未払金の減少818百万円、未払法人税等の増加235百万円並びに賞与引当金の減少279百万円によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては40,416百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,261百万円増加しました。これは主に資本剰余金の増加732百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益1,921百万円による利益剰余金の増加によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、本日（2022年8月9日）公表の「通期業績予想修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,651	14,577
受取手形及び売掛金	4,294	4,792
商品及び製品	8,010	9,563
原材料及び貯蔵品	1,817	1,443
前払費用	361	474
その他	1,979	2,695
貸倒引当金	△7	△9
流動資産合計	32,108	33,536
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	510	456
土地	8,883	8,883
その他(純額)	457	508
有形固定資産合計	9,852	9,849
無形固定資産		
	362	553
投資その他の資産		
投資有価証券	1,969	2,454
繰延税金資産	2,085	2,083
その他	586	652
貸倒引当金	△25	△105
投資その他の資産合計	4,616	5,084
固定資産合計	14,831	15,488
資産合計	46,939	49,024

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,694	2,314
未払金	2,433	1,615
未払法人税等	598	833
賞与引当金	542	262
その他の引当金	749	307
その他	2,211	2,800
流動負債合計	8,230	8,135
固定負債		
その他	554	473
固定負債合計	554	473
負債合計	8,784	8,608
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,615	16,769
資本剰余金	15,418	16,151
利益剰余金	6,859	8,352
自己株式	△904	△904
株主資本合計	37,989	40,368
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	184	50
為替換算調整勘定	△125	△352
その他の包括利益累計額合計	59	△301
新株予約権	3	3
非支配株主持分	102	345
純資産合計	38,154	40,416
負債純資産合計	46,939	49,024

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
売上高	31,734	34,706
売上原価	8,997	12,446
売上総利益	22,736	22,259
返品調整引当金戻入額	435	—
返品調整引当金繰入額	598	—
差引売上総利益	22,573	22,259
販売費及び一般管理費	18,898	20,316
営業利益	3,675	1,943
営業外収益		
受取利息及び配当金	11	9
為替差益	352	458
受取損害賠償金	11	1
その他	74	37
営業外収益合計	449	508
営業外費用		
支払利息	0	0
コミットメントフィー	30	6
賃貸借契約解約損	—	21
固定資産除却損	8	2
株式交付費	—	16
その他	5	13
営業外費用合計	45	61
経常利益	4,079	2,390
特別利益		
投資有価証券売却益	—	4
新株予約権戻入益	1	—
受取保険金	—	263
受取損害賠償金	158	442
債務消滅益	—	326
特別利益合計	159	1,037
特別損失		
投資有価証券評価損	—	0
和解金	—	275
貸倒引当金繰入額	—	80
リコール関連費用	—	110
特別損失合計	—	467
税金等調整前四半期純利益	4,239	2,960
法人税等	507	1,148
四半期純利益	3,731	1,812
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△22	△109
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,754	1,921

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	3,731	1,812
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	231	△133
為替換算調整勘定	△135	△226
その他の包括利益合計	96	△360
四半期包括利益	3,827	1,451
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,850	1,561
非支配株主に係る四半期包括利益	△22	△109

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

物品の販売による顧客への他社ポイント付与に伴う当社グループの負担額及びリテールストア事業における販売代理店に対する販売奨励金について、従来は「販売費及び一般管理費」に計上していましたが、収益より控除する方法に変更しております。また、当社グループ製品の延長保証サービスについて、従来は製品の販売時に収益を認識していましたが、当該サービスを製品の販売とは別個の履行義務として識別し、延長保証期間を考慮して算定された独立販売価格を基礎として取引価格の配分を行う方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上が60百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ60百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は38百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「その他引当金」に表示していた「返品調整引当金」「ポイント引当金」及び売掛金から控除していたリベートについては、返金負債及び契約負債として「流動負債」の「その他」に含めて表示することとしました。また、新たに返品資産を「流動資産」の「その他」に含めて表示することとしました。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)

当第3四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて、前事業年度の有価証券報告書に記載した内容から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年10月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	ダイレ クトマ ーケ ーテ ィン グ 事 業	プロ フ ェ ッ シ ョ ナ ル 事 業	リ テ ー ル ス ト ア 事 業	グ ロ ー バ ル 事 業	ス マ ー ト リ ン グ 事 業	ス ポ ー ツ ジ ム 事 業	そ の 他 事 業 (注) 1	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	14,014	6,795	6,622	2,514	17	588	1,181	31,734	—	31,734
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	14,014	6,795	6,622	2,514	17	588	1,181	31,734	—	31,734
セグメント利益 又は損失(△)	4,728	1,544	969	△578	△399	△657	224	5,830	△1,750	4,079

(注) 1. 「その他事業」は、EV車両を中心とした自動車販売を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,750百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,750百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	ダイレク トマーケ ティング 事業	プロフ ェッシ ョナル 事業	リテー ルスト ア事業	グローバ ル事業	スマー トリン グ事 業	スポー ツジ ム事業	その他事 業 (注) 1	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	15,708	8,014	7,658	1,480	147	948	748	34,706	—	34,706
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	15,708	8,014	7,658	1,480	147	948	748	34,706	—	34,706
セグメント利益 又は損失(△)	3,983	1,354	331	△378	△922	9	102	4,481	△2,091	2,390

(注) 1. 「その他事業」は、EV車両を中心とした自動車販売を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,091百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,091百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

なお、報告セグメントごとの売上高及びセグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。